

北海道の売り込みに東奔西走の日々

HOKKAIDO GOVERNMENT REPRESENTATIVE OFFICE
Managing Director
岡部 善尚



はじめに

日本の自治体がシンガポールに事務所を構えていると聞いてどんな活動が思い浮かぶだろうか。

弊所はASEAN地域における北海道の海外事務所として、観光や特産品のPRはもちろん、投資誘致や人材交流などの取組も行っている。北海道の売り込みに勤しむ一自治体職員の日々を紹介させていただく。

北海道とシンガポールの関わり

弊所（日本語名称は「北海道ASEAN事務所」）は、ASEANにおける貿易や観光など現地の情報収集や発信を行い、様々な分野の関係者とのネットワーク構築を進めるべく、北海道がASEANの経済交流支援の拠点として、日星国交樹立50周年の2016年に開設した。

しかしながら、北海道がシンガポールに最初に海外事務所を構えたのは今から27年前に遡る。道内の中小企業等による海外取引や観光客の誘致等の支援のために、北海道シンガポール事務所を開設したのが1997年のことである。その後2008年に一定の成果を得たとしてシンガポール事務所を閉鎖したものの、シンガポールを中心にその周辺のASEAN主要国における中間層、富裕層の飛躍的な増加が予測される中で、ASEAN全域をターゲットとした拠点として弊所を設置し、現在に至る。

観光

2023年度のシンガポールからの訪日外客数は616,962人¹だが、同時期にシンガポールから北海道を訪れた訪日外国人来道者数は70,100人²であり、日本を訪れるシンガポール人の一割以上が北海道を目的地に選んでいると言える。世界的スキーリゾートのニセコ、ラベンダーが人気の富良野、温泉地として有名な登別等の観光地はシンガポールでも一定程度の知名度があり、リピーターも多い。他方で滞在先をエリア別に見ると、札幌、小樽、ニセコ、登別、洞爺等の観光地を擁する道央地域に61.5%が集中²しており、また月別に見てもホリデーシーズンの12月に26.8%が集中²するなど、地域や季節の偏在が見られるのも事実である。

北海道は広く、四季折々に様々な魅力を見せる地域がたくさんあり、その魅力を広めるべく多くの観光関係者がシンガポールでプロモーションを行っている。本年8月16～18日に開催されたシンガポール最大級の旅行博「NATAS Holidays 2024」には、広域連携DMOの北海道観光機構がブース出展したほか、地域連携DMO、ホテル、運輸、小売等多くの関係企業・団体が参加し、一丸となって本道の魅力を発信した。弊所も北海道ブースで観光プロモーションを行ったが、上述のとおりシンガポール人はリピーターが多く、道内事情にも詳しい。来場客の中には、自分で作った1週間の道内周遊モデルコースの答え合わせも兼ねて観光相談に来る家族連れや、これまでの北海道旅行で撮影したフクロウやおオワシの写真（これが全てプロ顔負けの出来）を得

意気に披露してくれた方もいた。

また、道内の観光協会などが単独でシンガポールでプロモーションを行う機会もあり、要望に応じて当地旅行会社のアポ取り、アテンドから通訳支援に至るまでお手伝いをさせていただくこともある。



NATAS Holidays2024での北海道観光機構ブース

食

2023年の北海道内港からの道産食品の輸出額は788.1億円、うち114.1億円がASEAN向け³となっており、北海道にとってシンガポール含むASEANは食の輸出拡大を進めるに当たって重要なマーケットである。シンガポールでは2015年にアンテナショップ「北海道どさんこプラザ」を海外で初めて開設、現在は二つの店舗を拠点としてフェアや商談会を開催するなど、輸出に意欲を持つ道内事業者と連携して、北海道の食ブランドの発信と販路拡大に取り組んでいる。また、本年6月に札幌で開催された道内最大規模の商談会「北海道産品取引商談会」では、シンガポール食品製造者協会（シンガポール最大の食品製造事業者団体）が海外企業として初めて出展するなど、双方の貿易拡大に向けた関係構築が進められている。

シンガポールで手に取ることが出来る道産食品は水産品、牛乳乳製品、菓子など様々だが、最近の取組としてワインを紹介したい。北海道のワイナリー数は2024年9月末現在で68カ所と10年前の約3倍に増加しており、また近年仏ブルゴーニュの老舗ワ

イナリーが函館市に進出するなど、北海道はワインの産地として国内外から注目を集めている。昨年11月には道産ワインに特化した商談会やASEAN地域の富裕層を対象とした「北海道食とワインの夕べ」を開催しており、大口の発注につながるなど成果も見えてきている。

北海道では海外における道産食品の識別力を高め、北海道ブランドを保護することを目的に「道産品輸出用シンボルマーク」を作成し、香港、台湾、中国、韓国、ベトナム、シンガポール、タイで商標登録している。このマークは一定の条件を満たす道産食品を輸出する場合や、道産食品のPRを目的としたイベント、物産展などの広報用に使用する場合に、北海道庁に申請することで使うことが出来る。また、商標登録した国・地域の飲食店でも利用することが出来るため、「北海道産」の食材を使った料理を提供していることをアピールしたい飲食関係者におかれては是非利用をご検討いただきたい。



道産品輸出用シンボルマーク

マーク全体は北海道の形をデフォルメしたもので、白く柔らかな雪ときれいな空気をイメージしており、中心部の青はきれいな水と海産物を、緑は自然と農産物を、そして赤は恵み・花・人の温かさを表している。

投資誘致

北海道では地域の産業活性化を目的に海外からの投資誘致を促進しており、本道の優位性が活かせる産業や成長分野をターゲットに誘致活動を実施している。海外から北海道への代表的な投資事例としてニセコエリアがある。オーストラリアやシンガポール、香港などからの投資が集まることで著名なブランドのホテルが続々と開業し、世界から人が集まるスキーリゾートの形成につながった。このほか、米国系の飲料製造業が道内に工場の建設を予定するなど、観光や食などの本道が強みを有する分野で海外からの投資案件が増加している。

北海道の気候やエネルギーを活かした取組としては、データセンターの誘致が挙げられる。本道の冷涼な気候は、データセンターの消費電力の約40%を占める空調用電力を大幅に抑えることが出来るほか、北海道の豊富な再生可能エネルギーは、データセンターの脱炭素化に貢献するため、国内外の企業が、データセンターの立地適地として北海道に注目している。そのため、北海道庁では、再生可能エネルギーを活用したデータセンターの集積とともに、これらのデータセンターを利用するデジタル関連企業やデジタル人材の誘致・集積により、「デジタルインフラ」、「企業（デジタルサービス）」、「人」が一体となった「北海道データセンターパーク」を推進し、デジタル産業の一大拠点を創出する取組を進めている。本年2月にはシンガポールにてデータセンター投資家・事業者を対象に、本道のデータセンターの誘致に向けた提案・PRを行う商談会を開催している。

人材交流

日本の学生がシンガポールに研修旅行等で訪れる機会は多いが、弊所では人材交流の一環として北海道とシンガポールの大学生が参加する地域間交流ワークショップを実施している。本ワークショップは北海道庁、北海道大学及び北洋銀行による「ASEAN地域と北海道地域との架け橋となる人材育成に向けた取組に関する覚書」に基づく取組の一環として行っており、本年9月には通算して4回目となるワークショップを開催した。北海道大学から8名、シンガポール国立大学から4名、シンガポールマネジメント大学から4名の学生が参加し、「外



北大生とシンガポール大学生の地域間交流ワークショップ

国人の受入」をテーマにグループ討議を行った。このワークショップで印象的なのは、最初は初対面でも、議論を通じて互いにわかり合い、最後には友人として談笑し合う光景が毎回見られることである。日本の若者は内向き志向と言われて久しいが、在学中から海外を視野に活動する後輩の姿を目にして、(自分が青二才であることは自覚した上で)若い者には負けていけない、と毎年刺激をもらえる貴重な場である。

おわりに

本稿冒頭で「北海道の売り込みに勤しむ一自治体職員の日々を紹介」と意気込んで書いたものの、お読みいただければわかるとおり、ご紹介した内容は弊所単独で取り組めるボリュームではなく、本庁担当部局のみならず道内市町村や民間企業、教育機関等多くの関係者の尽力の上に成り立っているものである。北海道では国際関連施策を戦略的かつ効果的に推進するための基本的指針として「北海道グローバル戦略」を策定しているが、この戦略の目指す姿は「世界をより身近に、世界を舞台に活躍」である。北海道の様々なプレイヤーの方々がASEAN地域を身近に感じ、自身の舞台として活躍できるよう、橋渡し役として今後も微力を尽くしたい。

< 訳注 >

- 1 日本政府観光局 訪日外客統計 <https://www.jnto.go.jp/statistics/data/visitors-statistics/>
- 2 令和5年度(2023年度)北海道観光入込客数調査報告書 <https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.html>
- 3 北海道食の輸出拡大戦略<第2期>推進状況報告書(2023年 通期) <https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/sss/exp/suisinjoyoukyouhoukoku.html>

執筆者氏名

岡部 善尚 (おかべ よしなお)

経歴

1980年東京都生まれ、北海道大学法学部卒業。
2006年北海道入庁、外務省に出自し2013年より3年
間在カナダ日本国大使館で勤務。2023年6月より現職。
趣味は週末のウェットマーケット通い。